

第10課「霊の結ぶ実は節制」

日曜日「節制の逆説」

ヨハネ第一 2 : 15, 16 は避けるべき悪いものを、フィリピ 4 : 8 は用いるべき良いものについて述べています。避ける時も用いる時も自分一人の力で節制の実を結ばせることは無理です。しかし「避ける」と「用いる」の決断は他の誰もしてくれません。これを聖霊によって辛抱強く続けられるなら、「自分の救いを達成するよう」(フィリピ 2 : 12) 努めていることとなります。

月曜日「ヨセフと義の結果」

「キリストは、求めるすべての者に力をお与えになる。だれでも、自分が同意せずにサタンに敗北することはない。誘惑者サタンは、人の意志を支配したり、強制して罪を犯させたりすることはできない。彼は、われわれを悩ますことはできるが、汚すことはできない。苦悩を与えることはできても、汚辱することはできないのである。キリストが勝利されたという事実は、彼に従う者たちに、罪とサタンに対して雄々しく戦う勇気を与えるものである。」各時代の争闘 下巻 250頁

火曜日「サムソンと失敗の結果」

サムソンの母は妊娠中きちんとナジル人の誓願を果たしました。生まれてきたサムソンもその模範に倣えたはずなのに頭髪についての定め以外は無頓着でした。彼の弱点は情欲にブレーキをかけられないところで、ついには頭髪の秘密を女に明かして破滅を招きました。不節制のために超人的な力は十分に生かされませんでした。何か一つでも周りより秀でたところがあれば、と思いがちですが、それでことが解決すると思ひこむのは危険です。節制が不要になるほどの特別な資質や才能はありません。謙虚になりましょう。

水曜日「パウロの長距離競走」

普通の競走では「賞を受けるのは一人」です。信仰の「競技」では目標を絞り、罪との戦いに継続して取り組めば、皆「朽ちない冠」を受けられます。「他の人々に宣教しておきながら、自分の方が失格者になってしまわないためです」。宣教に従事している者も失格者になる。当たり前ですが、今一度確認しましょう。宣教していることが自己の罪と闘っていることにはなりません。それをもって不節制の埋め合わせをしようとしても無駄です。宣教は宣教、節制は節制。

木曜日「節制に成長する方法」

「すべての重荷や絡みつく罪をかなぐり捨て」(ヘブ 12 : 1) 節制は全てにおいて必要です。

「造り主の姿に倣う新しい人を身に着け、日々新たにされて」(コロサイ 3 : 10) 節制は日々継続していくことです。ある特定の事柄(禁酒禁煙と食事面)や思い出した時だけの節制では成長には至りません。仕事、金銭、言葉、感情、思考などにも日々節制が必要です。

今週のポイント

節制を車のブレーキに例えてみましょう。それは車にオプションで付けるものではありません。絶対不可欠なものです。私達は節制をそのように見ているでしょうか。他の実も同様ですが、「あればいいな」ではなく、「無くてはならない」と神さまは見ておられるのです。